

巻頭言

JFE スチール 専務執行役員
形鋼・スパイラルセクター長

弓場 勉



JFE スチールの形鋼部門では、建築、土木、造船分野の鋼材をはじめ多様化、高度化する社会ニーズに対応して社会基盤整備に資する製品を生産しています。

近年の事業環境としては、2008 年秋の米国金融危機を契機に世界同時不況による鉄鋼需要の急激な低下で大幅な減産を余儀なくされてきましたが、中国が牽引するアジア経済の回復は早く、インフラ整備を中心に形鋼製品の需要も回復してきています。しかし国内需要は依然として低迷しており、この厳しい環境下において、当社は、競争力の源泉である商品・技術開発を積極的に進めるとともに、利用分野からの品質サービス要求に対応すべくベースとなる品質・製造技術の向上に取り組んでいます。

建築分野においては、建築物の大スパン化、少柱化傾向に対応し外法一定H形鋼「スーパーハイスレンド[®] H」のサイズ拡大や高強度化を行ってきました。土木分野においては大断面で施工性、構造信頼性、経済性に優れた鋼矢板「ハット形 900 幅鋼矢板」や遮水性、耐久性に優れた遮水壁を形成する鋼矢板「J ポケットパイル[®]」などを、また地中連続壁などの鋼・コンクリート合成構造に使用される内面突起付H形鋼「J グリップH[®]」を開発しました。レールでは寿命が従来よりも 10% 以上高い耐摩耗性にすぐれた「高軸重用高耐久レール SP3 (Super pearlite type 3)」を開発しました。また、造船分野では不等辺不等厚山形鋼の TMCP (Thermo-mechanical control process) 技術を高度化させ品質、生産性改善を行ってきました。

2003 年の JFE スチール発足後、西日本製鉄所 倉敷・福山両地区にあった 4 ミルを 2 ミルに集約、倉敷地区 形鋼工場では建築・土木用の H 形鋼、鋼矢板の大型サイズを主に製造し、福山地区 形鋼工場では造船用形鋼、レールなどの小型サイズを主に製造する生産配分とし、設備と人の資源集中化を実施しました。以降、福山地区形鋼工場においては圧延精整設備の老朽更新、自動化工事を行い品質・能力向上を実施し、また倉敷地区 形鋼工場においては加速冷却設備 *Super-OLAC[®] S* (Online Accelerated Cooling for Shapes) を福山地区 形鋼工場から移設し外法一定 H 形鋼の効率化を実施してきました。

本特集号では近年の当社における形鋼の商品、設備の概要と技術開発について紹

介します。今後もより厳しい販売環境が想定される中、JFE スチールは常に最高の技術をもって社会に貢献すべく、お客様のご要求に合致した商品やサービスをタイムリーに提供していく所存です。なおいっそうのご指導とご支援を心からお願い申し上げます。